



# ピースデポ

## 平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 梅林宏道 / 住所: 〒223-0051 横浜市港北区箕輪町3-3-1日吉グリーンネ102  
TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: peacedepot@y.email.ne.jp  
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ  
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報
No.7
2000.12.15

# 2001年を東北アジア非核地帯化の第一歩に

事務局長: 川崎哲

ピースデポの2000年の事業を振り返るとき、核不拡散条約(NPT)再検討会議(4~5月、ニューヨーク)という世界的な重要な節目に合わせた展開が第一の仕事となったことは言うまでもありません。しかし同時に、ピースデポ独自の事業展開として、これまでさまざまな形で提案されてきた「東北アジア非核地帯構想」を現実のものへと近づける準備をした一年でもあったと総括できると思います。そして、やってくる21世紀最初の一年は、これをさらに実現段階へ一歩踏み出す一年にしたいと考えます。

## 「3プラス3」案が出発点

東北アジア非核地帯構想が実現段階へとはずみをつけてきている背景には、ピースデポ代表の梅林宏道さんが、「日本と南北朝鮮の非核3カ国が非核地帯条約を締結し、米口中の核保有3カ国がこれを保証する議定書を結ぶ」といういわゆる「3プラス3カ国提案」を国際的に示したことがあります。この提案は、1996年5~6月にスウェーデンで開催されたINESAP(拡散に反対する科学技術者国際ネットワーク)の会議で、当時ピースデポ準備委員長であった梅林さんが最初に提案したもので、以後彼がいくつかの論文を発表しています。日本文では岩波ブックレット「アジア米軍と新ガイドライン」(梅林宏道、98年10月)が分かりやすいです。この提案を支持したり、紹介したり、類似した提案をする人たちが増え始め、このことによって、非核地帯実現のための「現実的な議論のたたき台」が形成されたと言えるでしょう。

## ソウル・フォーラム

皆さまの温かいカンパに支えられて、私は6月のソウルで



長崎会議でのピースデポのブース。書籍のほかに、新聞記事などをパネルにしました。

の「韓国-在日-日本ユースフォーラム」に参加する機会を得ました。このフォーラムの内外で、私は韓国の平和運動家たちと、東北アジア非核地帯構想について非常に忌憚のない意見交換をすることができました。非核・平和をうたう地方自治体がこれからの地域外交で重要な位置を占めるといことについてはある程度の合意が生まれたと思います。現実には韓国では、不平等な米軍との地位協定(SOFA)の改定をめぐる、基地を抱える地方自治体が声をあげ始めていると聞きます。残念ながらこの点について、『核兵器・核実験モニター』誌ではじゅうぶんにフォローできていません。会員の皆さまの中から、この分野のフォローをボランティアでやってくださる方が名乗りを上げてくださるのを待つばかりです。

## ウプサラ・セミナー

続く9月のスウェーデン・ウプサラでの非核地帯NGOセミナー(『モニター』123号参照)では、韓国の学者および運動家と真剣な議論を、文字通り深夜まで連日行いました。「核兵

器をなくそう」という一般的なスローガンの下だけでの非核地帯構想では、韓国の平和運動家とはすぐにはかみあった議論ができないということを痛切に感じました。日米防衛新ガイドラインや、日米が共同研究している戦域ミサイル防衛(TMD)など、東北アジアの地域的安全への不安定要因に対する対抗軸として、非核地帯構想を位置づけるという方向でないと、韓国の多くの平和運動家たちに動機付けを提供できないということ学びました。

ウブサラでは、非核地帯NGO世界ネットワークが発足しました。この流れにつながる動きを、日本と韓国それぞれで作っていきたくて考えています。(事後報告になって恐縮ですが、私がウブサラのセミナーに参加するにあたっては、他の理事の方々からカンパをいただきました。同時に、6月の韓国派遣カンパと共通の目的であるという理解の下で、理事会の承認を得て、韓国派遣カンパの残金を使わせていただきました。ありがとうございました。)

## 日本国内でのとり組み

その後、10月3日には、東海大学平和戦略国際研究所主催による国際シンポジウム「北東アジアの平和と核問題」に代表の梅林さんが参加し、発題しました。

11月の「核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」では、私が、分科会「非核地帯と核の傘」のスピーカーの一人となり、ウブサラの報告や、非核地帯化へ動こうとしない日本政府に先んじてNGOが構想実現に向けて動き出そうという問題提起をし、大きな支持を得ました。

## 次はソウルで

これらの成果を踏まえて、2001年1月末にはソウルで、日本で非核地帯化を推進しようとするキーパーソンが10名ほど訪問して、韓国で関心を持っている学者および運動家と具体化のための意見交換をする会議を予定しています。この会議を皮切りに、2001年は、これまで「構想」段階にあった東北アジア非核地帯を、「実現」段階に踏み出す一年にしたいと考えています。会員の皆さん、支持者の皆さんの積極的な意見や関与を求めるものです。

## 新しいうねりに貢献

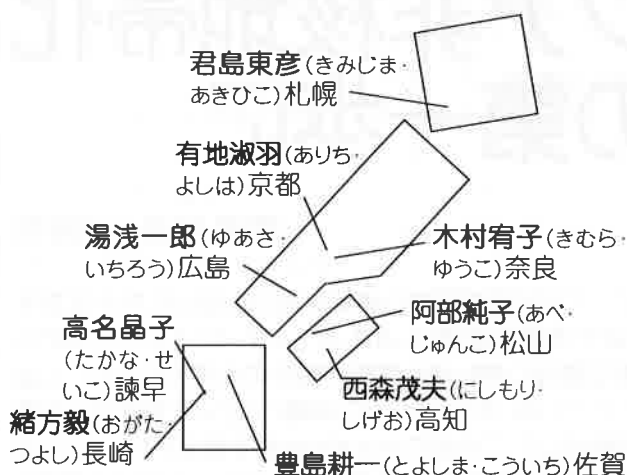
最後に、2000年のピースデポで重要な進展があったことを2つお伝えします。

第一には、今年の国内での新しい核廃絶運動のイニシアティブを積極的にサポートしたことです。その一つは、「核兵器廃絶2000年キャンペーン」に事務所を提供し、運営面でもたぶんに協力したことです。二つめには、11月の「核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」の成功のために、準備段階から、事務所のエネルギーのかなりの部分を注ぎました。これらの新しいスタイルの動きとピースデポとの連携は、相互に良い影響をもたらしたと思っています。

第二には、学生ボランティアが中心となって、核軍縮問題の勉強会を自主的に開催したり、事務所の資料整理に着手したり、韓国のフォーラムに意欲的に同行したり、『モニ

ター』の誌欄や合本作成のために尽力してくれたということです。これらの活動の一部は、この会報の誌面で紹介していますが、紹介しきれないほどの努力が払われており、この場を借りてお礼を申し上げます。同時に、こうした貴重なイニシアティブが持続することを支えるために必要な支援を、会員の皆さまにお願い申し上げます。若輩者にして事務局長という大役を仰せつかってしまった関係上、日常の事務所内では眉間にしわをよせていることが多く、善意でボランティアに来てくださっている学生さんたちに怖がられている節もあるようですが、根は心優しい青年でいるつもりですので、今後ともさまざまな形でのご支援を賜りたいということをお願い申し上げます。遅れに遅れた年末発行の会報の挨拶と代えさせていただきます。

## 地域ポスト紹介



この一年間のNPT関連セミナー・ツアーなどの結果、以上の方々が全国各地のピースデポの窓口となる「地域ポスト」になりました。それぞれの方の横顔は、次号で紹介いたします。

## 第4回韓国—在日—日本ユースフォーラムに参加して

今井齊(東京国際大学3年)

今回のユースフォーラムには、韓国・在日コリアン・日本の青年・学生が約200名参加しました。

ユースフォーラムが目指すものは、市民活動に参加する幅広い韓日の若者が集い、交流と対話を通じて共通の課題を探り、実践すること、そしてそのような場を安定的かつ、日常的なものにしていくことによって、韓日の市民社会の発展に寄与しようとするものです。

今回のユースフォーラムでは、「歴史認識・戦後補償」「平和」「北朝鮮人道支援」「人権」の4つのワークグループがあり、私が参加した「平和」WGについて述べたいと思います。

平和WGでは、6月3日のフィールドワークでメヒャンリ爆

4ページへつづく ➡

## 事務所はフル 回転しています

- 6月8日付 神奈川県個人情報取扱業務登録完了。(会員の皆さまの個人情報をきちんと保護することを、公的に約束したことになります。)
- 6月22日 NHK、NPT特集のためカメラ取材。
- 7月5日 『クリスチャン・サイエンス・モニター』の記者ヘレナ・コバンさん、沖縄サミットの取材のため来訪。
- 7月8日 第3回理事会、交流会。
- 8月1日 「核軍縮と非核自治体・2000」発行。
- 9月30日 第4回理事会
- 10月中旬 モニター作成用のパソコンが故障、修理に出す。
- 10月11日 北海道放送、在日米軍問題でカメラ取材。
- 11月6日 テレビ長崎、長崎集会の特集のためカメラ取材。
- 11月9日 理事懇談会
- 11月17日 「検証『核抑止論』—現代の「裸の王様」」発行。
- 原子力空母母港化調査、サンディエゴ(11.26~12.6)。梅林、呉東さん(NEPAの会)。
- 新聞記者来所取材(2000.2.29~12.12)8社、27件  
うち核問題17件、米軍・安保・沖縄8件、情報公開法2件
- NPT会議に向けたリーフ・ハガキ作成(4月)
- DS研究会(月1回のペース。事務所で)
- ボランティア自主勉強会(4.24~事務所で)

## NPTセミナーで 全国を回りました

NPT再検討会議の成果と課題を伝える講演に川崎が全国を回りました。主催団体の皆さまありがとうございました。

- 5月28日 東京①(主催:紅天狗)10名。
- 6月24日 東京②(主催:日本YWCA/東京YWCA)15名。
- 7月5日 鹿児島(主催:鹿児島県憲法を守る会/鹿児島県平和運動センター)70名。
- 7月6日 佐賀(主催:アンジー・ゼルターさんとともに核廃絶を進める会/ピースデポ)20名。
- 7月7日 長崎①(主催:核兵器廃絶地球市民集会実行委員会)30名。②(長崎平和文化研究所/長崎平和研究所/ピースデポ)50名。
- 7月30日 兵庫(主催:核兵器廃絶!「全世界一日行動」実行委員会。)10名。
- 8月6日 広島(主催:8・6ヒロシマ平和へのつどい2000/ピースデポ)30名。
- 9月10日 札幌①(主催:無防備・非核ネットワーク札幌)15名。
- 9月11日 札幌②(主催:市民ネットワーク北海道)5名。
- 9月11日 小樽(主催:「小樽・非核平和的市民条例」を求める会)20名。
- 9月12日 室蘭(主催:ピースネット室蘭)5名。
- 9月13日 苫小牧(主催:「非核平和都市条例」制定市民ネットワーク/市民グループ「大地の会」/無防備・非核ネットワーク札幌)9名。
- 9月14日 函館(主催:非核・平和函館市民条例を実現する会/ピースデポ)30名。
- 9月17日 秦野(主催:はだの・平和都市宣言につどい会/秦野市)20名。
- 11月25日 奈良(主催:国家機密法を考える女性の会)20名。
- 11月26日 京都(主催:京都府生活協同組合連合会/日本科学者会議京都支部/非核の政府を求める京都の会/京都宗教者平和協議会/原水爆禁止京都協議会)50名。

## こんな所にも 登場しました

一部はこの会報にとじこんであります。

- 3月30日 「世界平和連帯都市市長会議」ニュースレター第13号にモニター105号の国連総会本会議での投票結果が引用された。
- 4月 国連発行の軍縮フォーラム記録集に「ピースデポ代表梅林」の発言が掲載。
- 4月3日 朝日新聞1面にピースデポの調査による横須賀母港化についての記事掲載される。
- 6月9日 『週刊金曜日』に「日本政府は米空母の核付き母港を容認」密約の実態報告(梅林著)を掲載。
- 6月 「地球の子とモナリザ」7月号の核問題の特集掲載にピースデポが資料協力。
- 7月9日 川崎市多摩市民会館、成人学校で川崎が「核の20世紀」の講師を務める。
- 7月29日 広島平和研究所主催の国際シンポジウム「21世紀の核軍縮の課題」に梅林がパネリストとして参加。横須賀市記者クラブでトマホーク発射試験が現在も行われていることについて記者会見。
- 8月13日 東京新聞日曜版の見開きの「世界の核兵器の現状」の作成に協力。
- 8月16日 朝日新聞1面に72年日米協議の公文書から厚木騒音問題に関する日本政府の姿勢発表。
- 8月17日 長崎新聞1面に現在も続くトマホーク発射試験についての記事掲載。
- 8月24日 琉球新報社会面にWB寄港の原港がトマホーク発射実験を継続しているとの記事掲載。
- 11月23日 第2期NGOかながわ国際協力会議の委員長に川崎が就任。
- 12月 「イミダス2001」にピースデポの資料が掲載。
- 12月13日 朝日新聞神奈川面にトマホーク実験について掲載。

## 国際的に幅広く 活動しています

- 3月16~18日 R・グリーンと共にMPI東京行動。
- 4月23~5月5日 NPT再検討会議に梅林、川崎参加。
- 5月16~19日 NPT会議の最終局面に梅林参加。
- 6月2~6日 海外派遣事業として韓国ユースフォーラムに川崎が出席。ボランティア学生も参加。
- 6月14~19日 ストックホルムのINESAP会議に梅林出席。
- 6月21日 ノーチラス研究所研究員のウェイト・ハントレーさん来訪。
- 7月19日 パグウォッシュでのMPI会議に梅林出席。
- 9月1~4日 スウェーデン、ウプサラの非核地帯NGO国際セミナーに梅林、川崎が出席。ピースデポはセミナーの共催団体。
- 10月17~20日 ASEM民衆フォーラム会議(ソウル)に梅林出席。
- 10月25日 MPIと共同で外務省軍備管理審議官と話し合い。
- 11月15日 助言者のオリバー・マイヤーさん(検証研究・訓練・情報センター)来訪。
- 11月17~20日 核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ。スタッフ全員参加。
- 11月21日~22日 R・グリーン、A・ウェアと共にMPI東京行動。



チョン・マンギュさんの釈放を求めるユースフォーラム参加者ら

撃場を訪問する予定でした。メヒャンリとは在韓米軍の爆撃訓練の場となっている地域の名前です。さる、5月8日に米軍の戦闘機がエンジントラブルを起こし、機体重量を軽減するために搭載していた爆弾6発を一度に投下したことによって、民家二百軒以上の窓ガラスが割れ、気絶する人なども多数出たそうです。この「誤爆」に対する住民反発が盛り上がり、爆撃訓練は一時中止に。しかし6月に入り米軍は爆撃訓練を再開。これに怒った反対運動の指導者チョン・マンギュ氏が、爆撃再開を知らせる赤旗を破いたために警察に逮捕されたのです。彼にメヒャンリを案内してもらう予定でしたが、急遽予定を変更して、住民達の警察に対する抗議活動に合流することになりました。爆撃の中止、チョン・マンギュ氏の釈放、不平等な地位協定(SOFA)の改定など叫ばれていました。抗議活動は時折、住民と戦闘警察がぶつかり合い激しくなることがあり、初めての経験である私には怖かったが、ピースデポのK氏は先頭の方で押し合っていた、…。抗議活動に参加したことで住民の方々の苦痛や怒りを実感することができ良かったと思います。

その後バスで、オサン米空軍基地周辺を見学しました。基地からの廃油により、田畑にはその汚染された水が引き込まれている現状、水田の中に飛行機の夜間誘導灯が立てられているために、稲が育ちにくいなど基地による被害の一部を見ることができました。そこで疑問に感じたことは、なぜメヒャンリや基地周辺の人々があのような被害を受けなければならないのか、国家の安全保障のために基地が必要だというのなら、その基地周辺で生活している人々の生活が脅かされていないのだろうか、これを本当の意味で安全保障といえるのだろうか、私達はこれから安保の考え方を180度変えて民衆の安全保障といった観点から考え行動しなくてはならないことを教わりました。このような基地の現状は韓国だけではなく、沖縄にもあることを踏まえて勉強したいと思います。

ユースフォーラムで一番良かったことは、たくさんの方々に出会えたことです。いろいろな人とお話することで考えさせられることが多く、自分の問題意識を広げることがで

きました。次回のユースフォーラムにも参加したいと思っています。

(注)今井さんは、前田哲男理事の大学でのゼミ生で、ピースデポで資料整理などのボランティアをしています。今回6月にユースフォーラムが開催されることを知り、もう一人のゼミ生の松本さんと一緒に、自費で川崎事務局長に同行して参加したものです。

## ボランティア主催 勉強会のお知らせ

山口響(明治学院大学大学院)

現在私たちは、約月1回のペースで軍縮問題に関する勉強会を開いています。大体、土曜日に2、3時間ほどかけて、ピースデポの事務所を借りてやっています。今までのところなかなか人も集まらずまだ3回しかできていません。1・2回目ではNPTについて勉強し、3回目では、黒澤満さんの『軍縮問題入門・第2版』(東信堂、1999)を読みました。

今後の予定としては、梅本哲也『核兵器と国際政治1945-1995』(日本国際問題研究所、1996)や坂本義和編『核と人間Ⅰ・核と対決する20世紀』『核と人間Ⅱ・核を超える世界へ』(いずれも岩波書店、1999)などを読もうと個人的には思っています。もちろん他にも、日米安保・自衛隊・基地問題など様々な問題に関して参加者が持ちこんだ本をみんなで読むこともできます。また、本を読んで知識を仕入れるだけでなく、「平和」とはそもそも何なのか、NGOにできることは一体何かといった問題など、参加者の関心のあることの討論などもできればと思っています。

しかし、そうした討論をするには基礎的な知識は不可欠です。私も含め、『核兵器核実験モニター』などを読んだ時に、よく意味がわからない部分があるとお感じになっている方が多少なりともいらっしゃるのではないのでしょうか。私たちの勉強会は、いわば「しろうと」ばかりであり、基礎的な勉強をしてみたいという方に向いています。そして最終的には、「しろうと」から一歩抜け出ることを目指しています。

今のところはピースデポにボランティアで来ている学生がたまたま中心になっていますが、もっと幅広い層の皆さんが来てくれたら、と考えています。いまさら人には聞けないけどわからないことがある、勉強はしたいが自分一人では踏ん切りがつかない、といった方など、興味がおありの方はぜひ山口までご一報ください。(なお、私自身は、修士論文作成のため、2001年3月ぐらいまでは勉強会の仕切り役ができない状態です。だれかその間受け継いでくれる方がいれば、あわせてご連絡願います。ただし、今のところ参加者不足で毎月開くまでにはいたっていないため、仕事はそれほど多くありません。)

◆連絡先:電話045-864-7140、Eメールhibikiy@dh.mbn.or.jp

### 編集後記

ピースデポと僕の関わりは、3年前に、「ピースデポというのができるらしいですけど、どんな所ですか」と電話を入れたのがきっかけで、そこから思わぬ大展開。「切り開くというよりは、切り裂くという感じ」(甲本ヒロト)でした。ちょっと関わってみようという人、大歓迎です。憲法問題など、未着手の重要事項がたくさんあります。給料は出ませんが、お菓子はたくさんあります。(川崎)